

# HPV ワクチン（子宮頸がん予防）

～対象者は公費でキャッチアップ接種を受けることができます！～

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、子宮頸がんをはじめ、肛門がん、膣がん、尖圭コンジローマ等、多くの病気の発生に関わっています。

**特に、近年若い女性の子宮頸がん罹患が増えています。**

HPV ワクチンは、小学校6年～高校1年相当の女子を対象に定期接種が行われていますが、平成25(2013)年から令和3(2021)年の、HPV ワクチンの接種を個別に勧奨する取組が差し控えられていた間（※1）に、定期接種の対象であった方々の中には、HPV ワクチンの公費での接種機会を逃した方がいます。こうした方に、公平な接種機会を確保する観点から、定期接種の対象年齢（小学校6年から高校1年相当）を超えて、あらためて公費での接種の機会を提供しています。

## 【対象者】

平成9年度～平成18年度生まれ（誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日）（※2）の女性で、過去にHPV ワクチンの接種を合計3回受けていない方。

## 【接種を受けられる期間】

令和4（2022）年4月～令和7（2025）年3月の3年間、HPV ワクチンを公費で接種できます。

（※1）接種後に生じうる多様な症状等について十分に情報提供できない状況にあったことから、個別に接種を勧奨する取組を一時的に差し控えていました。令和3（2021）年11月の専門家の会議で、安全性について特段の懸念が認められないことがあらためて確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたことから、個別に接種を勧奨する取組を再開することになりました。

（※2）このほか、平成19(2007)年度生まれの方は、通常の接種対象の年齢を超えても、令和7(2025)年3月末まで接種できます。

## ～接種はどうしたら受けられる？接種場所は？～

予防接種法に基づくワクチンの接種は、地域の実情に合わせて各市区町村が実施しています。お住いの地域における接種方法などの詳細については、お住いの市区町村の予防接種担当課にお問い合わせください。

【厚生労働省 HPV ワクチンに関する Q&A】

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv\\_ga.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_ga.html)

【参考動画】

<https://youtu.be/axPoHVZcPUM>